

対馬～慶尚南道トンネル

※竹石 峰也

3 日韓トンネル技術委員会（2）

後日、国際ハイウェイ財団の理事長・理事会の承認を得たということで、その整理された膨大なデータを大江事務局長(前理事長・現顧問)から手渡された。特に梶栗理事長(故人・元会長)の快諾を戴いたことは、光栄なことであった。

確かに膨大であったが、私は一気に目を通し読み終えた。全てが、乾ききった砂漠の砂に冷たい清水が滲みこんで行くように、私はその内容を理解し、知識欲も魂までも満たされ、感動した。

思わず拍手を送りたくなった、いやそんな生易しい感動ではない。大声で叫びたくなった。勿論、これを整理し執筆した技術者達への賞讃の叫びである。

30年前に国際ハイウェイ建設事業団(国際ハイウェイ財団の前身)が実施した、韓国慶尚南道から日本北九州一帯まで、つまり日韓トンネル建設に必要な陸海の地質・環境調査結果を収集し、再検討した膨大なデータが、みごとに整理されていた。

タイトルは日韓トンネル既存資料整理・再解析「既存資料電子化プロジェクト」、4部会に分類されている。

1部会（広報）1.58GB(CD-R 3枚), 2部会（地質）6.22GB(CD-R 13枚), 3部会（施工）609MB(CD-R 1枚), 4部会（環境）700MB(CD-R 2枚), 既存資料整理・再解析報告書 494MB (CD-R 1枚)

合計 9.57GB (CD-R 20枚) , 約10GB。ほとんどがPDFデータで 膨大な数の文献量である。

そして、特に私を眠らせてくれなかったのは、2部会（地質）のデータである。6.22GBと半分以上を占めていた。